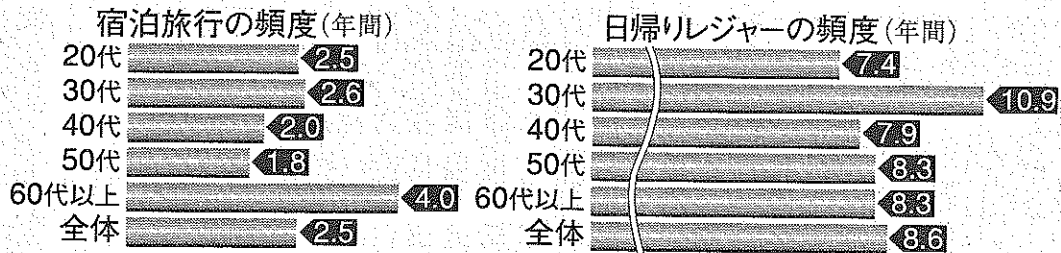


# 宿泊旅行年2.5回

子育て世代  
支出を抑制  
機会「減った」39%

福岡で調査



市場調査会社のジーコム(福岡市)は福岡県在住者を対象に今年1月実施した、九州の観光地イメージ調査の結果をまとめた。この1年間の宿泊旅行は平均2.5回、日帰りレジャーは8.6回だった。ともに、この1～2年で「減った」との回答が「増えた」を上回った。

年間の旅行回数は宿泊の場合60代以上が最も多く4.0回。日帰りでは30代が10.9回と最多だった。一方、この1～2年で宿泊旅行機会が「減った」と回答した割合は39.1%で、「増えた」の10.1%を大幅に上回った。また日帰りレジャーも「増えた」10.7%に対し「減った」が37.6%に上った。

特に30～40代は4～5割が宿泊、日帰りともに「減った」とした。ジーコムは「不況の影響で子

育て世代がレジャーの支出を切り詰めている」と分析している。

3年以内に訪れた観光地(17地域から選択)では湯布院が最多で、阿蘇別府と続いた。複数回訪

れた観光地は①阿蘇②湯布院③別府となり、3地域の強さが目立った。ハウステンボスのある佐世保市は、これら2点の設問では7位だったが「今後(も)行きたい観光地」としては下から2番目の16位だった。

調査は1月22～27日、327人にインターネットで行った。